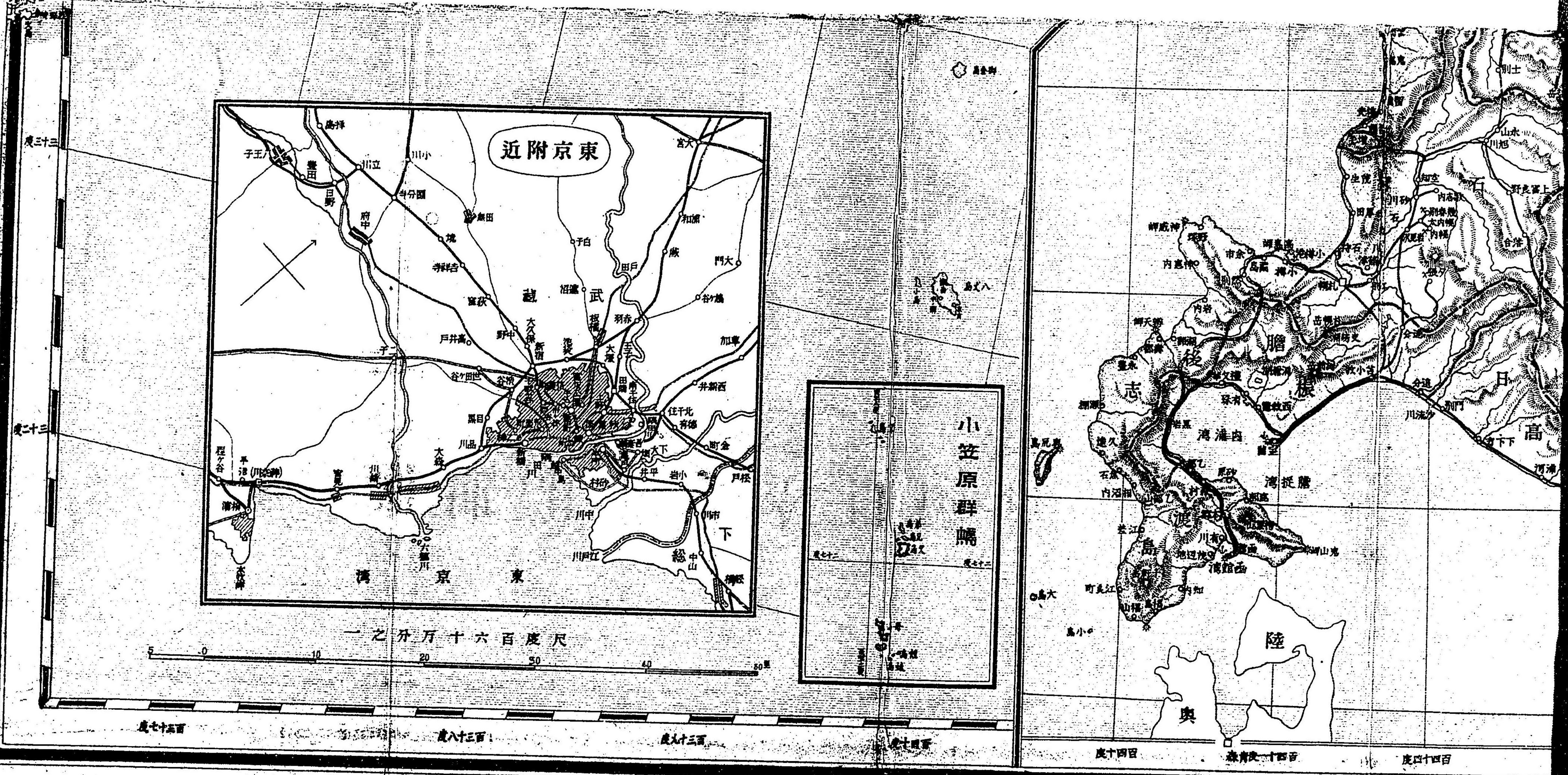


(日本漫遊案内附圖) 東京日本橋區本町三丁目八番地 博文館藏版



近附京東

小笠原群島

志高

一之分万十六百度尺

度七十五百

度八十三百

度九十三百

度十四百

度十四百

度十四百

度十四百

三 重 近 傍

十歩を行けば、二ノ華表にて、皇族下乗の榜示あり。之を入れれば、右方は神樂殿、大麻授與所、九丈殿、五丈殿、玉串行事所等あり。其等の前を過ぎ、三ノ華表、一に板垣御門と名くる内に入れば、正殿なり。此所は豊受大神を祀り、天産彦火瓊杵尊、天兒屋根尊、天太玉尊を祀り、元と丹波國比治真名井原に奉安したりしを、雄略天皇の御代に、皇太神の神勅に依り、度會神主の祖先なる大佐々命に勅し、此地に迎へ遷し奉りしなり。故に内宮の御鎮座より四百八十二年を後るといふ。宮域は十一町、接續の神苑一万五千餘歩、老杉森々として社殿を蔽ひ、恭やしく御垣の外より拜すれば、社殿は蒼蒼掘立ての素朴なる建築にて、御柱の高サ一丈、御屋根には千木鯉木を備へ、高欄には五色の玉を飾るのみ。(口繪参照すべし)參拜了りて北御門口より出れば、神殿背後の高倉山に連なる一帯の庭苑には、舊時は人家櫛比して、宮域を穢すの恐れありしに、明治十九年中、地方の有志家相謀り、神苑會を興し、人家を除き、境域を正し、花木を植え、泉水を設け、靈境は更に神々しきを加ふ。神苑の正面北側に國道を隔て、農業館あり。苑の附屬にて、農作、種樹、漁獲、牧畜、蠶蠶の各産物、ならびに製品と、各種の標本、模型、圖書、統計等を陳列し、日本の農業法及農産物を一室中に觀るには、頗る完備す。

豊受大神宮は五穀の豊熟を守らせ給ふ神にましますれば、此所に此館の設けあるは甚だ宜きを待たりと謂ふべし。全国農民の参拜者には、一見せば裨益極めて大なるべし。農業館を出て数丁にして、岡本町の南に宮崎文庫あり。慶安元年の創建にて、蔵書二万冊ありといふ。公開せざるを遺憾とす。

内宮 外宮の参拜後、旅館青樓軒を連ぬる古市町を過ぎ、お杉やお玉の引き鳴らす三味線かきまじき間の山を越へ、宇治町に入て五十鈴川に架する宇治橋の畔に至れば、橋下には網受けと稱する乞食群を爲し、竿頭に網を附け、旅客に勸めて橋上より錢を投げしめ、網もて之を受くるもの數十人、頻りに投錢を勸めて、喧々囂々たり。橋の彼方は内宮の宮域内にて、車行を禁じ、参拜者は右折して川の畔りに臨み、清列珠の如き流れに就て盥ひ嗽ぎ、更に老杉の森鬱たる神林内に入れば、此所にも一ノ華表、二ノ華表を過ぎ、大麻授與所、五丈殿、四丈殿等の結構、概ね外宮と同じく、進んで内宮正殿前の石段を登り、砂礫の上に跪き、敬んで拜み奉るは、皇祖天照皇太神の鎮まります所、天手力雄命、萬幡豊秋津姫命を配祀す。大神は、人皇十代崇神天皇の御宇まで宮中に奉祀せしを、天皇その神威を演さんことを恐れ、大和の笠縫の里に移し、後に十一代

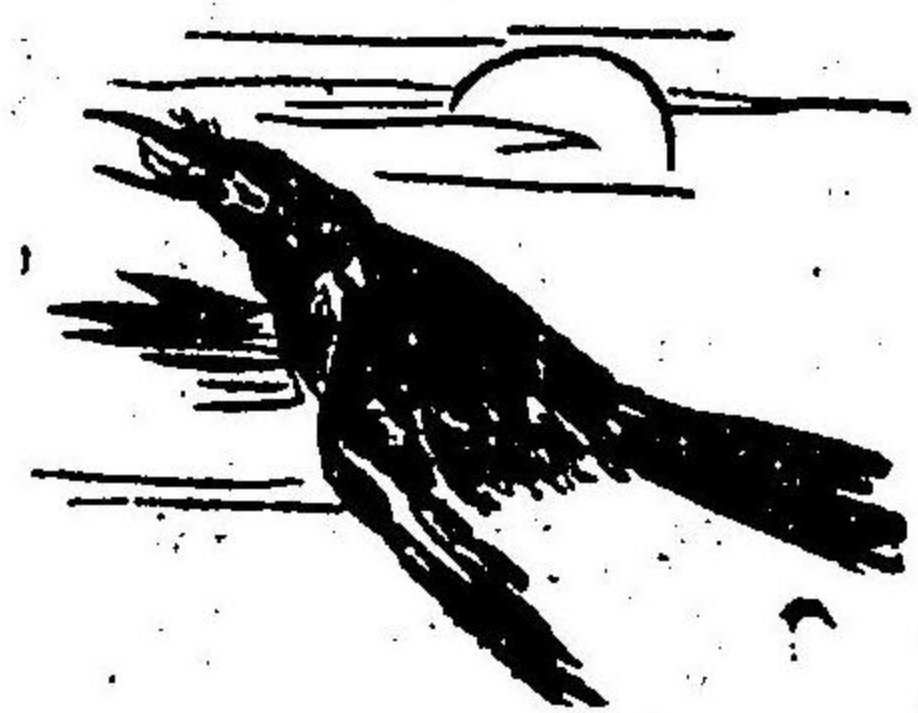
垂仁天皇の二十五年に、倭姫命、神勅を受けて今の地に遷し奉りしなり。参拜の間、仰いで皇祖の由來遠きを思ひ、俯して皇統の天壤と共に窮まり無さを考ふれば、西行法師が何事のよはしますかは

知らねとも

かたじけなさ

涙こぼるゝ

の歌の偶然ならざるを思ふべし。神殿建築の素朴なるは、外宮と同一にて、唯だ屋上の千木の尖頭、外宮は外に開け、内宮は内に開くるの差あるのみ。兩ゆるるものを見る、之を朝熊山と爲す。伊勢志摩の兩國に跨り、頂上に勝峰山金剛證寺の巨刹あり。故に夏時は登山者多し。登山の道二條あり。内宮の神苑地よりするとさは、六十丁にして山上の平地に達す。他の一は、古市の街南より東南に折れ、一里餘にして



宮とも、毎二十一年に改築し、祠殿の傍に改築の餘地を備ふ。明治三十六年は正に兩宮とも改築の期に中る。

朝熊山 兩宮参拜を了りたる後、二見浦に廻るは、普通に参宮者の順路にて、其の途上、右方に高く一山の海を壓して聳

朝熊村に達し、更に山路二十二丁にして山上の平地に達するなり。山上の平地に豆腐屋と呼ぶ旅館あり。更に十二丁にして頂上に達す。山頂は海拔一千五百尺、途中所々に休憩所あり。金剛證寺には弘法大師の作なる虚空藏菩薩を本尊とし、古來數しば火災に罹りしも、本堂は尙ほ存し、結構雄偉、金碧燦然たり。万金丹本舖野間氏の家も豆腐屋旅館の附近にあり。此邊は伊勢海を下瞰して盆地の如く、遠く富士山を望み、十八ヶ國を雙眸の中に集む。夏時酷暑の日にも、寒暖計は華氏八十度を上らず、以て其の高峻を想ふべく、遠眺近矚の風景絶佳なり。

二見浦 宇治山田町より二見浦に出るには二路あり、一は内宮より宇治町を經、五十鈴川を渡りて朝熊山の麓を過ぎ、川の下流の汐合橋を渡りて二見に至る間道なり。他は外宮より山田を經、川崎町を過ぎ、汐合橋にて間道と合する本道なり。今は本道に電車鐵道通じ、旅客の往來甚だ便利なり。二見は度會郡二見村の海濱、松青く砂白く、海は遠淺にして最も海水浴に適す。此邊を茶屋町と稱し、旅館、茶店、貝細工賣る家など數多あり。此所より三河の瀧郡まで日々に定期船往復す。旅館には清渚亭、太陽館などあり。また賓日館とて、神苑會の別區あり。徵古館の假陳列所として、古器物を陳列し、

公衆の觀覽に供し、また神苑會員の休泊にも應ず。此所に宿泊して翌る朝拂曉海濱に出で、茶屋町より海岸の東方、路の窮まる所に至れば、大小二個の巨巖は屹然海上に並び、満潮の日には恰かも波上に浮ぶが如く、岸に近きは小にて、高さ十尺、岸に遠きは大にて、高さ二十九尺、二巖の頂より頂へ大注連繩を張り、大なる巖の肩に小華表を立つ。頓がて見る紅礁東海の波上に浮み、朱の如き光りを水上に散じつゝ、漸やく昇つて正に兩巖の中間に出現するは、實に參詣者の一齊に拜せんと欲する所の景なり。二見巡廻の目的は、主として此の日出の一刹那にあり。然とも日の長短により、紅礁の昇る位地を異にし、能く兩巨巖の間に望むは容易に期すべからざるも、右に志摩沿岸の大島小嶼、碁布星羅するを眺め、前に伊良湖崎と知多半島に對し、右方に伊勢灣を圍池に擬するの眺望は、何れの日にも眺むるも飽くを知らざるなり。(口繪寫眞參照すべし)

志摩沿岸

鳥羽港 伊勢に内外兩宮を拜し、朝熊山に登り、二見浦に廻る。普通の參宮者多く之を爲す。然とも二見より僅に二里を隔つる海岸の坦路を行き、志摩の鳥羽港に海山の

奇勝を賞する者稀なるは、畢竟未だ其の海山起伏、雄偉變幻の壯觀を知らざるに由るなるべし。二見より此港に至るは、馬車人力車自在に通じ、山を右にし海を左にし、丘を縫ひ水に添ひ、景勝地幽の間を行けば、三面陸を繞らす海灣は、古來伊豆の下田港と相對し、遠州灘七十五里の航程、三晝夜の日和を待ちたる港にて、今も船舶の出入多く、戸数は僅に千餘に過ぎざるも、郡役所あり、警察署あり、郵便電信局、海軍石炭庫、船渠、鐵工場、商船學校等あり。中にも商船學校は、此地の出身なる故近藤眞翠氏の設立にて、氏の歿後一旦廢絶に歸ししも、二十八年中、地方有志の斡旋により再興したるもの、規模大ならずと雖も、私立としては全國唯一と爲す。港の背後の日和山は、山麓より山頂まで、五六町に過ぎざるも眼界極めて潤く、脚下には答志島、菅島、安樂島、坂手島等散在して、鳥羽の港は其の間に灣入し、漁舟の點々散在して去來するさま、さながら益山盆池の如く、更に遠く眸を放てば、伊良子崎の水邊に横はる上に、雲際遙かに富岳の縹緲として峙つあり。其の左右には、信州、甲州、尾州の諸山、逶迤として有無隠見して連なるの景、多く得かなきの眺めなり。山上茶店あり、茶を煮、酒を賣り、登臨の客をして飽くまで絶景を賞して歸るを忘れしむ。(口繪寫眞参照すべし)

鳥羽以南 五里を隔て、的矢港あり。志摩國三大灣の一にて、安乘崎と明神崎とを以て海灣を擁し、灣内風浪無く、船舶の碇泊に適す。また安乘崎の西南、志摩半島の南に盡る所を波切の大王崎と爲し、鳥羽より九里、前に太平洋に面し、左方に安乘崎と對して、遙に伊良子崎を眺め、近く巖礁の海中に出没し、風を逐ふ狂浪奔馬の如く、來りて巖礁に觸れ、忽ち碎けて烟と爲るの光景、雄絶また壯絶、况や凸凹出入する沿岸の灣外は、風濤激し、蛟龍怒り、其の夜間の航行中、僅に安乘崎の燈内を見認むるときは、鹽田隨齋をして、
掀舞如塵万石舟、盲風怪雨撲檣頭、東西不辨乾坤黑、一點星燈是志州、
と歌はしむるも、其の灣内雲霧れ波穩かなる所には、同じ詩人をして
百尺懸崖震万雷、巨巖如撼雪濤堆、纒沿裡海平如席、歸港漁舟棹舟來、
と咏せしむ。此等沿岸の好風景は、他に比類稀なるも、惜い哉交通便ならず、人の探勝する者稀なり。
大王崎を去て西方四里、御座半島の岬角、金比羅山の奇勝あり。其所に至るの途、一里にして船越、二里にして片田、海灣凸凹して或は漁村の山に圍まれたる、或は丘陵の

大洋を下瞰したる、風景行く毎に觀を改むるに、まして御座岬頭に立て眺むれば、左方の入江を隔つる濱島は、さながら琴を横たへたるが如く、其背後遙に朝熊山を望み、左方は遠く紀伊の諸山を雲際に眺む。遠眺近眺の風景言ふべからず。鹽田隨齋また詩あり。

島嶼繁環浦口廻、海門中斷一天開、紫瀾縹碎白波立、百道驚風捲雪來、實に御座岬頭濱島の眺め、志摩沿岸第一の壯觀といふ。

若し夫れ御座灣を渡り、南伊勢の沿岸より、紀伊に入り、長島、尾鷲の各港を尋ね、熊野浦より瀨八丁の奇勝を案内するは、本書の下巻に於てせんとす。

日本漫遊案内上卷(東部)



日本漫遊案内東部

明治三十六年九月印刷
 明治三十六年九月日發行

定價金壹圓

著者 坪谷善四郎

發行者 大橋新太郎

印刷者 青木弘
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社秀英舎第一工場
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地



發兌元

東京日本橋區本町三丁目

博文館

213752

品粧化新行流米歐

●目下佛國巴里を始め、其外歐米文明國
貴顯紳士貴婦人間に最も賞用
せられつゝある優等品なり

原名ヘヤウツチ

●毛髮發生増殖液

●毛髮發生脫毛劑

●美白光澤皮膚液

●面皰斑點整止液

●口中含嗽芳香液

●其他雲南産正眞麝香、清涼止め、しらが染め、
巴里香水、香水入はみかき、其他數百種

丙	甲	丙	甲	丙	甲	丙	甲
一	一	一	一	一	一	一	一
五	五	三	三	二	二	五	五
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
價	價	價	價	價	價	價	價
五	五	二	二	五	五	五	五
十	十	十	十	十	十	十	十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

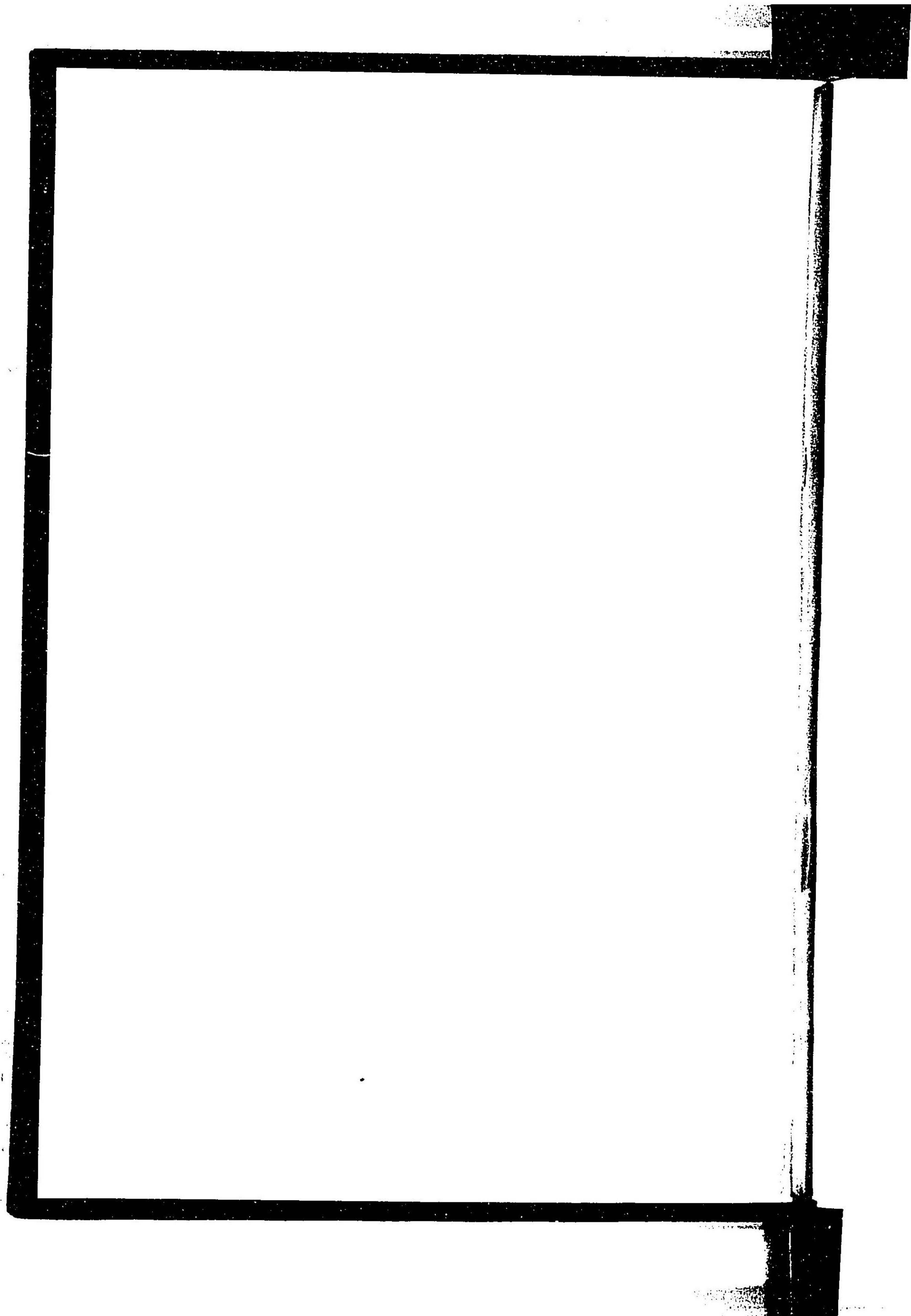
錢十各料送郵

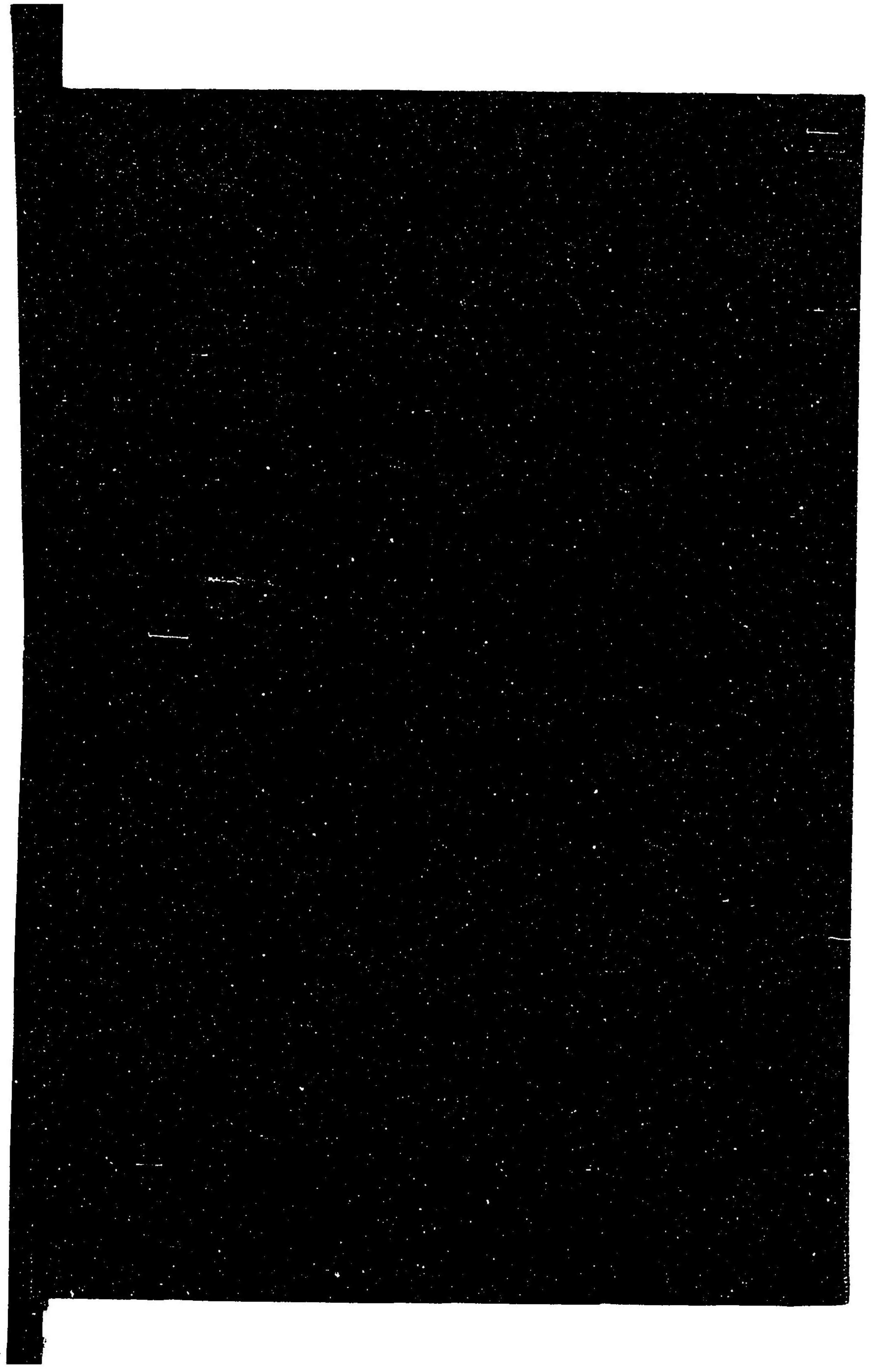
屋間卸品粧化種藥外内

番六十八百二局本話電 角町石本り通大區橋本日市京東

店本堂愛博

候仕送發日即は際の文注御





96
316

023041-001-1

96-316

日本漫遊案内

坪谷 善四郎/編

M36, 38

ADB-1010



